

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2014年 10月 25日 VOL.37 第271号 定価 550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 □座名:特定非営利活動法人アムダ

2014年
秋号

秋

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第2回 黒住 宗道様 (黒住教副教主)

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>

AMDA との出会い 医療と宗教のコラボレーション

AMDA: AMDA との「ご縁」は、AMDA 設立前に遡ると聞いておりますが…。

黒住: AMDA グループの菅波代表と黒住教教主の黒住宗晴との出会いは、1981年です。その後1984年にAMDAが設立されるわけですが、当時まだ学生であった私は、1988年に留学先の英国から帰国して、まずは挨拶まわりのために全国の支部を巡拝するなど、教団内の活動に終始していました。AMDA との実質的な出会いは、1993年に岡山市で開催された「国際シンポジウム・林原フォーラム」です。人道支援に「医療」だけでなく「宗教」の視点が入ったシンポジウムで、この中で分科会のコーディネーターをつとめさせていただきました。

世界で活動をする上で、必要不可欠な「宗教」への意識

AMDA: 「アジア多国籍医師団」の設立の機会ともなった会議ですね。ここから「医療」と「宗教」のコラボレーションがスタートして、今のAMDAの活動にも継承されています。

黒住: どうしても、日本では「宗教」というと、遠い存在に感じている方が多いと思います。

しかし、初詣、お墓参りなど「宗教」と意識しないだけで「文化」として、しっかり根付いています。海外では、もっと顕著に「宗教」が人々の生活の基本であることが分かります。海外の文化を知る上で、その国の「宗教」を知ることが必要不可欠です。

AMDA を支えてくださっているご支援者の皆様には、インタビュー形式で様々なエピソードをお話いただいています。

第2回目の今回は、AMDA 発足以前から親子2代にわたり、宗教者のお立場からAMDAを支えてくださっている黒住教副教主 黒住宗道様にお話を聞きました。



宗教、宗派を超えたネットワーク 祈りに基づく行動

AMDA: 確かに。私たちの活動でも、宗教に関する情報は非常に重要です。「宗教」が「紛争」の引き金になることもありますよね。それを考えると、黒住先生が事務局長をなさっているRNNは世界的に見ても非常にユニークな取り組みです。

黒住: そうかもしれませんね。RNN (人道援助宗教 NGO ネットワーク) は、宗教・宗派を超えた有志の団体で、現在12の宗派・教団が協力してくださっています。「祈りに基づく行動と、行動を伴う祈り」を共通の理念として活動を行っています。この設立のきっかけとなったのは1996年2月に発生した中国雲南省大地震の際に、AMDAの要請を受けた岡山県内の宗教者及び信仰者が共に行動したことでした。「ただ手を合わせて祈るだけではなく、行動を共にして後押ししたい。」それぞれの思いが重なって、その後開催された「第3回おかやま国際貢献 NGO サミット」で、現在のRNNが形作られました。宗教・宗派などのルールにとらわれず、それぞれが「祈りと行動」を共にできるような「共通のテーブル」のようなイメージでしょうか…。



親子で街頭募金を呼びかける宗道氏、宗芳氏

AMDA 「医療と魂のプログラム」 救えなかった命を弔う「宗教」

AMDA: まさに「多様性の共存」ですね。その他にも、これまで黒住先生には、スマトラ沖地震津波など、被災地での「医療と魂のプログラム」(ASMP)に参加していただいています。宗教者の方でなくてはできない支援の形ですね。

黒住: 東日本大震災直後、RNNのメンバーがAMDA調整員として被災地を訪れた時に、災害時における宗教者の役割である「救えなかった命を弔う」「祈りを通して遺族の方が癒される」ことを改めて実感しました。しかしながら、「宗教者」というひとくくりで被災地を訪れ、自分達だけで慰霊を行うことは、場合によっては自己満足のパフォーマンスになりかねません。亡くなった方々の魂を弔い、残された人々に安らぎを与えることが目的ですから、地元の宗教者による祈りの場に「祈り添え」をさせていただく気持ちが、ASMPには必要だと思います。それと同じように、AMDAという組織に対しても、「寄り添っていく者」として、これまでと変わらない「普遍性」を持った組織づくりや活動をお願いしたいと考えています。



スリランカASMPにて

ASMPには必要だと思います。それと同じように、AMDAという組織に対しても、「寄り添っていく者」として、これまでと変わらない「普遍性」を持った組織づくりや活動をお願いしたいと考えています。

AMDA: 今日のお話を心に留めて、活動を続けて参ります。本当にありがとうございました。

東日本大震災復興支援事業

AMDAでは、2011年に発生した東日本大震災の「第2次復興支援3か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱とした、様々な復興支援事業を継続しています。

AMDA 東日本大震災国際奨学金

東日本の復興を担う世代に対する教育支援として「AMDA 東日本大震災国際奨学金」を支給しています。これは将来医療従事者を目指す被災地の学生を対象に、年間18万円(15,000円/月)を支給するもので、返済の必要はありません。2011年度の支給開始から、2013年度までにのべ253人が本奨学金の支給を受けました。さらに、皆様からのご支援により、本年度新たに7人に奨学金の支給が決定し2014年度の奨学生は28人となりました。

以下に、岩手県立大槌高等学校の奨学生から頂いたお手紙を抜粋し、ご紹介させていただきます。

2年 女子

私は、将来看護師になりたいと思っています。理由は、病気の方々のお世話を通じて人の役に立つことができ、とてもやりがいのある職業だと思ったからです。看護師になるという夢がかなったなら、自分の生まれ育った地域で働きたいと思っています。その為に、自分が今出来る、勉強や社会活動にも取り組んでいきたいと思っています。

私の将来の夢をかなえる為には、大学や専門学校に入学し、資格を取得しなければなりません。奨学金をもらいながらそれらの学校に進学していきたいと考えています。

2年 女子

私が、看護師という仕事に憧れた理由は母です。私の母は、私が小学5年生のころから看護助手として病院に勤めています。日勤の他に夜勤もあり、大変な仕事だと思っています。しかし、患者さんからのお礼の言葉や嬉しそうな顔を見ると、やりがいを感じるし、また頑張ろうと思うと言っていました。そんな母の話聞いて、私も看護師になって、たくさんの人達と関わりたいと感じたことが、憧れたきっかけです。皆さんの力を借りて、私も自分の夢をかなえて、人の為になる仕事をしたいです。

3年 男子

私は、将来看護師になりたいと考えています。小さい頃から、身内に看護師がいて、その人が、「今日も患者さん良い笑顔だった」など楽しそうに仕事をしている事を聞いて、「私もなりたい」と思いました。

その後、東日本大震災が起きて、命

の尊さが分かりました。私が目指している看護師は甘くない事が良く分かりました。だからこそ東日本大震災を経験した一人として、命が危ない人や、怪我をしている人などの助けになりたいと思いました。さらに私は、コミュニケーション力があるので、患者の気持ちなどが分かると思いました。私は、一人でも多くの人を助けたいし、笑顔にしたい。昔から夢だった看護師が私にとって一番ふさわしい職だと思いました。立派な看護師になれるよう日々努力します。ありがとうございました。

3年 女子

私は幼いころから、将来は医療に携わる職業に就きたいと思っていました。高校生になってからは、その思いがさらに強くなり、医療の現場で働く人を裏からサポートできる職業に就きたいと考えるようになりました。

私が臨床検査技師になりたいと思ったきっかけは、赤十字病院の職場体験です。私は他のところを体験させていただきましたが、臨床検査の説明を受けてとても興味が湧き、調べていくうちにこの職業に就きたいと思いました。

私は、地域の人たちの健康のサポートをできるような臨床検査技師になりたいと思っています。他人を影から支えられるようにがんばって学びたいと思います。

3年 女子

私が保健師になろうと思ったきっかけは、地元で、保健師が少ないと聞いて、「この地元のためになんとかしたい」と思ったからです。また、復興の手助けとして地域の皆さんの健康をサポートすることも魅力に感じました。地域の

方々みんなと関わっていきたくからです。

将来は絶対地元に戻ってきて、復興に携わると共に、地域の方々の健康のサポート、そして心から健康になれるような温かい保健師になれるよう努力していきたくです。

3年 女子

3月11日に東日本大震災が発生し、私は家族と一緒に高台にある高校に避難しました。家が被災したため帰ることができなくなり避難所生活を送ることになりました。日が進むにつれて物資はたくさん届いてくれるけれど避難者の体調はどんどん悪くなっていく一方でほんとうに誰かが亡くなってしまわないかというくらい悲惨な状況でした。しかし、医療チームの方や看護ボランティアの方々が避難所に訪れ、体調不良者やその他の方に一人一人声をかけ話を聞いたりしてコミュニケーションを取っていました。私はその時はなにが変わることがあるのだろうかと思議な目で見ていました。しかし、医療チームや看護ボランティアの方々と接したことにより、すぐ笑顔だったり体調不良を訴えていた人が、少しずつよくなってきているのを見て、医療の力は素晴らしいと改めて実感でき、私自身も医療を通してたくさんの方々を笑顔にできるようにになりたいと思いました。このことが看護師を目指すきっかけになりました。

3年 女子

私の将来の夢は、看護師になることです。看護師になりたい理由は、震災の時に多くの看護師に出会い、たくさん話をしたりして元気になれたので、今度は自分が元気のない人達を笑顔にしたいと思ったからです。看護師は、直接患者さんと触れあえるので元気にできるチャンスが多いです。だからこのチャンスをいかして皆に元気を与えられる看護師になりたいです。

そのために勉強を頑張りたいです。今できる勉強を全力で取り組んで、大学に入学できたら、なりたく看護師になれるように一生懸命に学びたいです。看護師になったら1人でも多くの人を元気にして、頼られるように努力をしたいです。そのため、勉強を一生懸命にやって、看護師になるという夢を叶えられるように頑張りたいです。

被災地間相互交流事業～第7回復興グルメF-1大会開催

復興支援事業の一環として、「被災地間相互交流」のコンセプトをもとに行っている「復興グルメF-1大会」。2013年1月にスタートし、第7回大会が岩手県陸前高田市の高田小学校グラウンドを会場に7月13日に開催されました。

本大会は、東北沿岸部一帯の商店街などが復興に向けて一丸となり、東北の現状及び情報を全国的に発信し、さらに情報や知恵を共有することで、新たな復興への協力体制を形成することを目的としています。各地域特色のある「復興グルメ」を考案し、来場者による投票で「復興グルメ」のナンバーワンを決定します。

これまでに、気仙沼市、大船渡市、石巻市鮎川浜、南三陸町、南相馬市、七ヶ浜町の被災地3県6市町で開催してきました。

第7回開催当日は、小雨がちらつく中ではあったものの3000人を超える

方々が来場し、多くの方の笑顔であふれる大会となりました。これまでで最多となる13地域16グルメがエントリーし販売終了時間の14時まで、各ブースが助けあいながら完売を目指し、会場は熱気に包まれました。さらに、各地域のゆるキャラが会場を盛り上げ大人気の妖怪ウォッチのキャラクターも来場し、一緒にダンスを踊るなどグルメ以外の見所も満載でした。

初の試みとして写真展を同時開催。本大会のコンセプトのひとつである「被災地をつなぐ」をキーワードに、参加したチームの地元地域の被災時や現在の様子を写真展示しました。



にぎわう会場の様子

優勝したのは気仙沼復興商店街 南町紫市場の「ごろごろイチゴのかき氷」次いで2位は高田大隅つどいの丘商店街「ウニがのってる高田のゆめまん」3位は石巻まちなか復興マルシェ「石巻ボンゴレ焼きそば」でした。

次回、第8回復興グルメF-1大会は11月2日に福島県相馬市の「市民のひろば」で開催します。

岡山からの東北復興支援ボランティアバス 第4弾運行



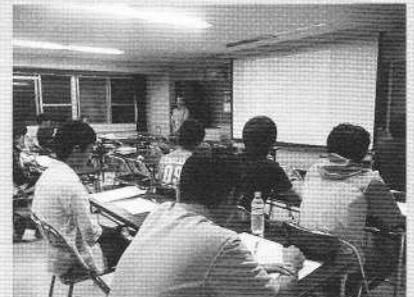
出店者、ボランティアスタッフで記念撮影

多くの方に東日本の被災地に気軽に足を運んでいただき、被災地の現状を知っていただくため、また岡山から東北への支援メッセージを届ける意味も込めて、2013年10月から復興グル

メF-1大会の開催に合わせてボランティアバスを運行しています。参加者の方々は、大会の準備、運営を被災地の方とともにいき、被災地の見学や被災地の方々との交流会、研修なども行います。

第7回大会に合わせて運行したバスに参加したのは高校生から70代の方までの40人。前日の準備では、暑い中のテント設営、大会当日は各ブースでのお手伝いを行い、それぞれのチームの方々と共に大会を大いに盛り上げました。さらに大会終了間際に大雨に見舞われながらも片付けを手伝い、大会の成功にひと役買いました。

岡山経済同友会主催 学生ボランティアを受け入れ



大槌での学習会 当時の話を聞く学生たち

岡山経済同友会主催の東北復興支援学生ボランティアバスの受け入れは、今年で4回目を迎えました。

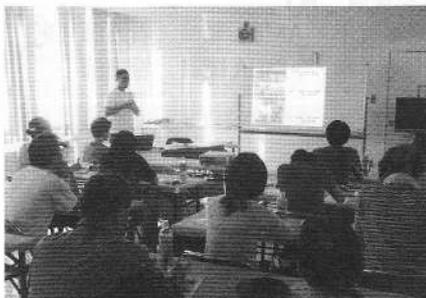
AMDAが活動を行っている宮城県石巻市雄勝町から岩手県上閉伊郡大槌町まで、海岸の清掃活動や、草取りなどのボランティア活動や、被災地の方との交流を行いました。

40人の学生のうち、9割が初めての被災地訪問。直接被災地の方々とふれあい、たくさんの思いをもって帰路につきました。

療状況や問題点、鍼灸治療の必要性、そのほか学術的な講義など、非常に貴重な2日間のプログラムとなりました。

参加者からは、次の災害に備えるために準備をしていきたい等、災害鍼灸の可能性、重要性を実感した感想が多く寄せられました。

第2回災害鍼灸チーム養成プログラム開催



災害時における鍼灸の重要性を映像と主に講義

9月6、7日の2日間に渡り、第2回災害鍼灸チーム育成プログラムを岩手県大槌町、宮城県石巻市雄勝町を会場に実施しました。これは今後起こりうる

災害に備えて災害鍼灸チームの育成を目的としています。

第2回となった本プログラムは、募集定員を大きく上回る鍼灸師及び鍼灸師を目指す学生など15人が参加しました。大槌町では植田医師(大槌町)、佐々木鍼灸師(大槌町)、今井鍼灸師(AMDA災害鍼灸ネットワーク代表世話人、明治国際医療大学教授)の講義を行いました。翌日は会場を雄勝町に移し、高橋医師(米国ウィスコンシン医科大学教授)、小倉医師(元雄勝診療所所長)、吉田鍼灸師(石巻市)による講義を行いました。緊急時、復興時を通じた医

インド・パキスタン 洪水被害者に対する緊急医療支援活動



パキスタンの巡回診療の様子

9月4日から7日にかけてインド、パキスタン北部の国境付近カシミール地方で、モンスーンの豪雨による大規模な洪水が発生した。インド北部からパキスタンに流れているジェルム川では堤防が決壊し、道路や建物が次々と浸水、ダムが崩壊するなど大きな被害が出ました。この洪水によりパキスタンでは、死者312人、負傷者540人、200万人以上が被災し、(パキスタン環境省自然災害管理庁 9月15日発表)インドでは死者295人、約240万人が被災しました。(インド内務省災害管理局 9月15日発表)

この状況を受け、AMDAではパキスタン、インドの両国で医療支援活動の実施を決定。それぞれの国のパートナー団体とともに支援活動にあたりました。

パキスタン

9月9日から現地協力団体NRSPによる現地のニーズ調査と支援活動の準備がスタートしました。17日には、AMDA看護師1名が日本を出発し、NRSPチームと合流し、情報共有などを行い、活動内容について打ち合わせを重ねました。

パキスタン北部を流れるジェルム川とチェナップ川の2本の川が氾濫したため、洪水被災地は広域にわたり、さらに被災地域が徐々に上流域から下流域に移動していました。

9月20日、21日には、プンジャブ州ハフィザバッド県ジャランプールバティアン郡チャックバティ町ナロワール村、チニョット県サンバル郡でのNRSPの無料巡回診療に合流し、医療支援活動を実施しました。もともと、医師が少ない地域であるため、医療ニーズが非常に高く、多くの患者が列を作り、2日間の活動を通してのべ710人を診療することができました。洪水後に乾燥した砂が舞う状況があるため上気道感染症の症状を訴える人が多数おり、小児患者では下痢の症状を訴えるケースもみられました。

いずれの地域も、収穫直前であった農作物が浸水しており、家畜の餌も洪水の被害にあっていました。レンガ造りの家の多くは損傷しており、泥造りの家は、ほとんどの家屋が全壊。被災者は今後の生活再建に大きな不安を感じていました。そこで、AMDAはテントとして使用できるブルーシートと医薬品の提供を通じて支援を実施。さらに、継続的な医療支援活動を行うため10月6日から、医療スタッフの2次派遣を行っています。

インド

インドでの活動はインド、ナグプールを拠点とするパンニャ・メッタ・サンガ、天台宗一隅を照らす運動総本部、AMDAの3者合同での支援活動として実施しました。



インドの巡回診療の様子



9月25日に日本を出発し、インド、デリーに到着したAMDA看護師は、同団体関係者と合流し、スリナガルへ移動し、地元NGOカシミール福祉センターの協力を得て、支援活動を開始しました。

被害の大きかったパタン町、ゴبران村の視察では、学校も被災しており、再開の目途もたっていませんでした。舟も織り機も被害を受け、収入を得る手段を失ってしまった被災者も多くみられました。そこで、被災者へ25枚の毛布を届けました。

28日には、ゴبران村で訪問診療を実施。主な症状は呼吸器感染症で、高齢者の中には、長時間水に浸かっていたため身体の痛みを訴える方が多くいました。活動は地元医師に継続してもらい、さらに残った医薬品は被災者のために使ってもらえるよう、パタン町病院の医師に寄贈しました。さらに追加で被災者に83枚の毛布を配布することができました。残った77枚の毛布と医薬品は、パタン町役場に寄贈し、これらは、ジャマルムリ村、マンディルジャリ村、マティペラ村、タンタロイ・ペラ村の4つの村のために役立てられる予定です。役場課長からは、今回の支援に対し、パンニャ・メッタ・サンガ、カシミール福祉センター、AMDAそれぞれに感謝の言葉が贈られました。

【派遣者一覧】

岩本智子 / AMDA 職員 / 看護師 (米)
山崎 希 / AMDA 職員 / 看護師

中国雲南省地震被災者に対する緊急医療支援活動

8月3日、中国南西部の雲南省昭通市魯甸県を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生しました。この地震による被害は死者589人、負傷者2401人。2万棟以上の家屋が全壊、19万棟以上が半壊、一部損壊の被害となりました。(雲南省民政庁 8月6日発表)

この状況を受け、AMDAでは医療チームの派遣を決定。5日、四川省成都市

に到着。現地協力機関である四川省人民対外友好協会と合流し支援活動について協議した結果、雲南省人民対外友好協会の協力が得られることが決定。具体的な支援活動を模索するため、昆明へ移動しました。しかしながら、被災地への陸路が閉ざされており、また救援活動も進んでいない状況があったため、現段階での支援活動の実施を断

念。復興支援を視野に入れた今後の支援活動について、協議を重ねました。

今後は、被災地の状況を注視しながら、医療を中心とした支援活動を行う予定です。

【派遣者一覧】

山田立夫 / AMDA 参与 / 調整員
岩本智子 / AMDA 職員 / 看護師 (米)
山崎 希 / AMDA 職員 / 看護師

2014年スリランカ紛争復興支援スポーツ親善交流和平構築プログラム



すっかり打ち解けた学生たち

2014年8月27日～29日の3日間に渡り、スポーツ、文化、宗教を通してスリランカ和平構築プログラムをコロンボ市内にて実施しました。

AMDAはスリランカの内戦停戦中の2003年から3年間、異なる3つの民族に対して「スリランカ医療和平プログラムI」として、医療や保健教育などを実施しました。さらに2009年内戦終結後の2011年からは、「スリランカ医療和平プログラムII」として、無料白内障手術を異なる民族、異なる地域で実施しています。さらに医療だけでなく、スポーツや宗教・文化の交流を通じて次世代を担う若い世代の相互理解、和平教育を実現したいという思い

から2011年8月に第1回目となるスポーツ交流・文化交流・宗教交流を実現し、今年で4回目の開催となりました。

今年ではコロンボ市近郊にある8校から80名、日本から15名の中高生が参加し交流を深めました。

27日にはスリランカで信仰される4つの宗教（ヒンズー教、キリスト教、ムスリム教、仏教）施設を参加者全員で訪問。普段訪れることのない他宗教施設の訪問は生徒同士が互いの宗教について紹介し合う良い機会になりました。

28日には、スポーツ、音楽交流を行いました。生徒たちは民族や国に関わらずお互いの名前を呼び合って応援し、勝利を目指しました。特にスリランカの伝統的なスポーツ、エッレでは相対するチーム同士が一体となって応援することで盛り上がりました。また生徒たちは、スリランカに古くから伝わる童謡の合唱やキャンプファイヤーを囲んでの日本の盆踊りなどを通して交流を深めました。

29日は、スリランカにおける健康教育について学んだ後、少人数に分か

れて交流する機会を設け、生徒たちはイラストやジェスチャーなどを用いて個々に自己紹介、連絡先の交換、プレゼント交換などを行いました。閉会式では3日間を通して積極的に交流していた生徒を選出して、みんなで称賛しました。生徒たちは3日間のプログラムを通して国や宗教、文化を越えて交流を図り、別れを惜しむほどに互いの理解を深め合うことが出来ました。

【参加した日本人学生の声（抜粋）】

国や人、文化、宗教に優劣はなく、お互いを認め合い、学び合えるようになりたいと思います。スリランカの生徒は自分の国のことをとても誇りに思っていて、自分と同じ年だとは思えませんでした。コミュニケーションをとるために必要なことは言語ではなくて笑顔だと思いました。自分の意思表示をしっかりとすることが大事だと気付きました。



輪になって折り紙に挑戦

広島市北部土砂災害 AMDA・総社市合同 緊急医療支援活動

8月20日に広島市北部をおそった豪雨により、広範囲で土砂崩れが発生しました。死者74人、負傷者44人という甚大な人的被害に加え、家屋の被害は全壊133件、半壊122件、ほか浸水被害も加えると4,559件に上りました。（広島県災害対策本部9月19日発表）

このような状況を受け、総社市とAMDAグループとの多文化共生に関する協定に基づいた、合同緊急支援活動を実施することを決定。第1次派遣として、21日に総社市職員とAMDAスタッフが、総社市を出発して、避難所となっている梅林小学校に向かいました。先に到着していたAMDA看護師に合流後、ニーズ調査や被災者への声掛けなどを実施し、物資の提供を行いました。また、公式の避難所ではないものの、地域の方の避難所になって

いた上組集会場には物資が不足していたため、水やカップめんなどを提供し、被災者の方からは「初めての支援です！ありがとうございます。」と感謝の言葉をかけていただきました。23日には、第2次派遣を実施。同様に支援物資の提供などを行いました。これらの活動を通じて、被災者の心身の疲労に対する支援が必要であると感じたことから、心身の健康回復に効果のある鍼灸治療の支援活動を決定。29日に鍼灸師1名を含めた第3次支援チームを派遣しました。同時期に、広島県鍼灸師会、広島県鍼灸マッサージ師会の2つの地元団体が、避難所でボランティア活動を実施するということから、「ローカルイニシアチブ」として、両団体協力の下、AMDAは後方支援という形で活動を実施することができました。



支援物資を運びこむ AMDA 山河看護師

【AMDAからの派遣者一覧】

今井賢治 / AMDA 災害鍼灸ネットワーク代表世話人 / 明治国際医療大学教授 / 鍼灸師
 武田未央 / AMDA ER ネットワークメンバー / 保健師
 山河城春 / AMDA ER ネットワークメンバー / 保健師
 中川雅人 / AMDA 職員 / 調整員
 山崎梨枝 / AMDA 職員 / 看護師

福知山洪水 緊急医療支援活動



AMDA 鍼灸治療を行う今井鍼灸師

8月17日に発生した豪雨により京都府福知山市街地が洪水に見舞われ、市街地の浸水被害のほか道路、線路の冠水など甚大な被害となりました。

浸水被害の片づけなどで心身共に疲労状態にある被災者の現状を受け、AMDAは鍼灸師、看護師からなる医療チームの派遣を実施しました。鍼灸治

療を4人に実施したほか、清掃活動の手伝いなども行うことができました。

【AMDAからの派遣者一覧】

今井賢治 / AMDA 災害鍼灸ネットワーク代表世話人 / 明治国際医療大学教授 / 鍼灸師
 山崎梨枝 / AMDA 職員 / 看護師

2014年7月～9月の動き

<講演>		
7月6日	国際協力の視点で宗教を考える「国際協力における宗教の役割」	国際医療勉強会 ILOHA
7月17日	社会貢献講演会「社会貢献活動やボランティア活動の意義や尊さを伝える」	岡山県立玉島高等学校
7月31日	アジアでの災害医療支援活動～被災地での活動の実際	フェリシモ しあわせの学校事務局
8月2日	地域に根差す相互扶助のアクション～岡山のプライマリケア推進と30年の国際緊急人道援助の軌跡～	日本地域看護学会第17回学術集会
8月22日・9月6日	「国際看護について」「災害看護について」	岡山県立真庭高等学校 看護科
9月14日	在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第20回記念大会全国の集い in 岡山2014「市民公開講座」	岡山市・NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
9月16日	「国際看護について」	岡山県立倉敷中央高等学校 専攻科
9月26日	JIA 建築家大会2014 岡山「中国地方の自然災害の特性 / 東日本復興報告」	おかやま建築5会+1まちづくり協議会・JIA 災害対策委員会・JIA 東北支部
<大学講義>		
7月4・11・18・25日	「国際ボランティア活動論」	神戸女子大学
7月22日	学生生活概論「ボランティア活動について」	就実大学
8月30日・9月1日・2日	「災害医療援助特論」 公開講座及び集中講義	岡山県立大学大学院
9月4・11・18・25日	「災害看護」	相田市看護専門学校
<イベント>		
7月13日	第7回復興グルメF-1大会（主催：第7回復興グルメF-1大会実行委員会・AMDА復興グルメF-1運営事務局）	
7月17日	新庄村 野土路農場 フィールド見学・ほたる祭り2014（主催：新庄村野土路地区）	
7月26日	高校生フォーラム ボランティアって楽しい！～東日本大震災、フィリピン台風30号などへのボランティアを通じて～（主催：AMDА・AMDА高校生会）	
8月8～15日	東京都 三鷹市役所 「平和展」(AMDАパネル展示)（主催：三鷹市役所）	
8月23～27日	平成26年度東日本大震災復興支援ボランティア（主催：(社)岡山経済同友会・大学コンソーシアム岡山事務局・受入協力：AMDА）	
8月23～30日	おかやま国際塾4期生海外研修（フィリピン）（主催：おかやま国際塾実行委員会）	
8月25日	鼎談 相馬市長、総社市長、AMDАグループ菅波代表「大規模災害への備えと助言」（主催：総社市）	
9月1日	平成26年度徳島県総合防災訓練参加（主催：徳島県保健福祉部医療政策課）	
9月6・7日	第2回災害鍼灸チーム育成プログラム	
9月27日	コープフェスタ2014（AMDАパネル展示等）（主催：生活協同組合おかやまコープ）	
<農業実習・職場体験>（AMDА野土路農場）		
7月16日	高根県立農林大学校 有機農業、国際貢献における有機農業普及について	
9月17～19日	新庄村立新庄中学校 生徒2名 職場体験	
<AMDА高校生会活動>		
7月19・20日	高校生会定例会	
8月2・31日	〃	
9月7・27・28日	〃	
7月26日	AMDА・AMDА高校生会主催「高校生フォーラム」	
8月4・5日	岡山県教育庁保健体育課主催 平成26年度高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成研修会 参加・発表	
<本部訪問>		
8月6日	岡山県立岡山大安寺中等教育学校 3年生 職業調べに関するインタビュー	

おかやま国際塾 4 期生 海外研修を実施

8月23日、今年の研修先であるフィリピンに出発したおかやま国際塾の塾生4名は、フィリピン・ボホール島での研修を終了し、8月30日帰国しました。



家屋建設ボランティアを行う塾生ら

おかやま国際塾とは AMDA と岡山大学法学部教員が合同で、2011年に開始したグローバル人材の育成を目的としたプログラムで、今回で4回目を迎えます。本年度は6月15日に開催した開講式から、出発までの約2か月間、4名の塾生らは現地でのスケジュールや、ホームステイの調整、活動内容企画、プレゼンテーションなどを準備しました。

8月23日にマニラに到着した一行は、24日にボホール島へ移動し、現地のボホール州立大学の学生と合流。5

日間の滞在中、孤児院や小学校での子供達との交流、ボホール州立大学の学祭への参加、英語でのプレゼンテーションや意見交換など実施しました。また、ボホール島は、昨年10月、大地震に見舞われ、多くの方が避難生活を余儀なくされています。塾生は、避難民の方への家屋建設ボランティア活動に参加し、被害の大きさを肌で感じました。

海外研修を通じて学んだことを次につなげるため、11月12日に活動報告会の開催を予定しています。

総社市・丸亀市・AMDA 災害時応援協定 締結

8月30日に開催された第11回岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」災害セミナーの開催後に、岡山国際交流センター2Fの国際会議場会場で総社市、丸亀市、AMDAの災害時応援協定の締結式を行いました。

これは南海トラフ地震など、想定される大規模災害が発生した際に相互に連携しながら、被災地の支援活動を行うための協力協定です。



モンゴル国より「北極星勲章」の叙勲

AMDAのこれまでのモンゴルにおける活動が評価され、モンゴル国大統領令第100号により、AMDAグループ菅波代表の「北極星勲章」叙勲がきました。これは、モンゴル国が外国人に出す最高位の勲章です。

9月19日東京の駐日モンゴル国大使館において叙勲式が執り行われ、特命全権大使ソドブジャムツ・フレルバートル閣下より菅波代表に「北極星勲章」が授けられました。



第2回 国際医療貢献フォーラム開催報告

10月4日、岡山国際交流センターを会場にAMDA、岡山県の共催で「第2回国際医療貢献フォーラム」を、開催しました。

2013年12月に開催した第1回フォーラムでは、国際医療貢献に取り組む自治体、NGO、教育機関、医療機関など様々な分野の団体が一堂に会して、各々の取組について発表、意見交換を行い、「次世代を担うグローバル人材の育成が今後の国際貢献における礎となる」という認識が共有されました。これを受けて、第2回フォーラムを「グローバル人材育成の様々な実践」と副題を付け開催することができました。

第2回フォーラムでは、新たに、若者自身による活動発表の時間も設け、業種や世代を超えた発言の場となりました。



基調講演では、厚生労働省大臣官房審議官の牛尾光宏氏にご登壇頂きました。最後に座長、岡山大学佐野教授からの挨拶では、第3回開催に向けて、「個々の活動から業種を超えた、産官学のネットワークでプロジェクトを実施していくことは非常に重要。次回は、産官学の協力について、ディスカッションが実施できれば」との提言で締めくられました。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



岡山プラスリングス様

倉敷アカデミックウイメンズ様

人類愛善会様

学生フォーラム 「ボランティアって楽しい」 開催報告



参加した学生全員で記念撮影

7月26日、AMDA 高校生会が中心となって学生を対象としたフォーラムを開催しました。会場には学生を中心として約50人の来場者があり13時半のスタートから16時半までの3時間。熱気あふれるフォーラムとなりました。

AMDA 高校生会OGで、現在AMSAのメンバーとして活躍する大学生の滝澤さんの基調講演に続いて、AMDA 高校生会、和気閑谷高校、高松農業高校、福山誠之館高校が発表を行いました。さらに、参加者がグループに分かれてディスカッションを行い、積極的な意見が飛び出し、それぞれの熱い思いを共有する貴重な時間となりました。